

令和5年度 研究紀要

研究主題

人の気持ちを想像し、自分事として

考えることができる児童の育成



台東区立金曾木小学校

豊かな心を育む道徳教育

台東区立金曾木小学校

校長 細田 儀広

2020年に現在の学習指導要領が実施され4年目となります。文部科学省は、子どもたちに育成すべき資質・能力について、基本的な考え方の中で「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」についてふれています。多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど、人間性等に関することが大きく取り上げられています。

また、これと同時期にウェルビーイングという言葉が、教育現場でも聞かれるようになりました。ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良い状態であることを表すもので、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含む概念です。現在、国際的にも注目されている考え方で、その背景には、経済先進諸国において、経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉えることが重視されてきていることが挙げられています。

学習指導要領に示されている豊かな人間性とウェルビーイングの考え方は、共通する考え方であるように感じます。ウェルビーイングには個人が達成・獲得する能力や状態に基づく獲得的な要素と、人との関わりや関係性に基づく協調的な要素があるとされています。まさに、学校では、学級集団や異年齢集団の中の個人として、相手を理解したり、自分自身に折り合いをつけて協力したりする態度を育成しています。そして、多様な考え方にふれることで、自分自身を見つめ直したり、相手の良さを発見したりしています。

金曾木小学校では、人間尊重の精神を基盤とし、人間性豊かな感性、社会の変化に対応できる知・徳・体の調和のとれた児童の育成をめざして、「思いやりのある子」や「自分の良さを伸ばす子」を教育目標の一つとして掲げています。

3年前より、特別な教科道徳の研究を通して、子どもたちに豊かな人間性を育てる授業実践を行ってきました。私たち教師の道徳教育に関する理解も深まりました。金曾木メソッドの活用等、研究を通して授業改善も図られ、子どもたちの道徳的心情も少しずつ育ってきていることを感じます。金曾木小学校は、これからも教員自身の専門性を高め、道徳の授業を通して児童理解を深めるとともに、指導技術を向上させていく所存です。

結びとなりますが、本校の研究の充実にご支援をいただきました台東区教育委員会事務局の皆様、講師としてご指導いただきました白百合女子大学教授 針谷玲子先生、台東区立根岸小学校校長 小西祐一先生、元全国小学校道徳教育研究会会長 飯島英世先生に御礼申し上げます。今年度、ご指導いただいたことを生かして、次年度も児童に豊かな心を育成するため、教職員一同研究に励む所存です。誠にありがとうございました。

研究の概要

1 教科 特別の教科 道徳

2 児童の実態（年度末の反省より）

- ・自己中心的な言動が見られ、相手の立場や思いを考えて生活することに課題がある児童がいる。
- ・善悪を正しく判断することや、正直に自分や相手と向き合うこと、目標に向かって努力する強い気持ちに課題がある児童がいる。
- ・昨年度のアンケート結果から、道徳の授業でよく考えている場面として、「これまでの自分や、これからの自分について考えている時」、道徳の学習をして良かったと思うこととして「よりよい自分になりたいと思えた時」の割合が全体的に小さいことが分かった。
→これまでやこれからの自分の生活にも目を向けることができるような発問や学習活動の充実の必要がある。

3 今年度の重点内容項目（学校経営方針より）

「規則の尊重」…低学年C（10）、中学年C（11）、高学年C（12）

「親切、思いやり」…低・中学年B（6）、高学年B（7）

創立120周年行事と関連させて

「よりよい学校生活、集団生活の充実」…低学年C（15）、中学年C（16）、高学年C（17）

「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」…低学年C（16）、中学年C（17）、高学年C（18）
を道徳地区公開講座や研究授業で取り組む。

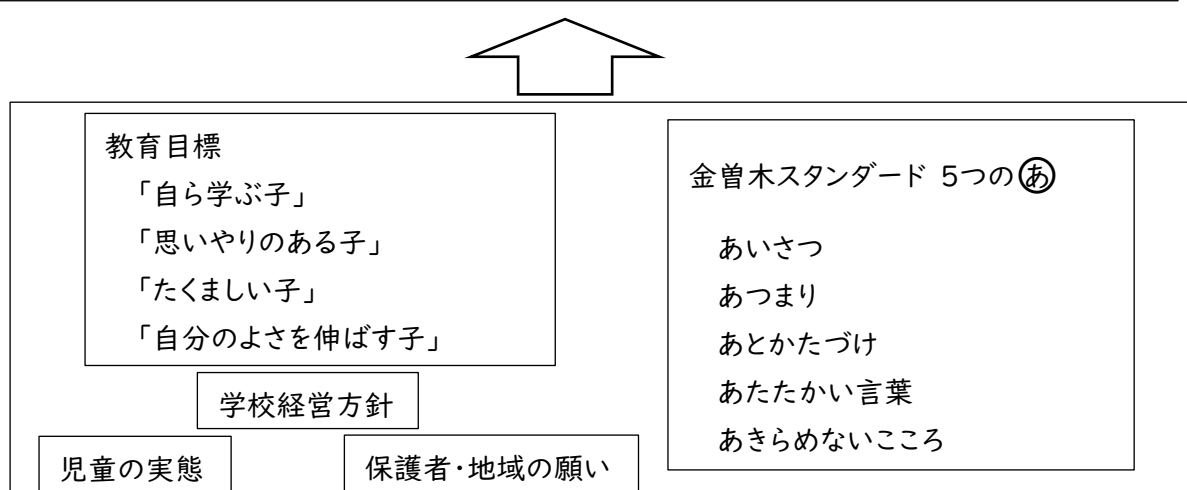
※各学年で取り上げる内容項目、教材について

→重点内容項目は入れつつ、実態や時期に合わせて、選択できるようにする。

4 研究主題→前年度から引き続き

研究主題

人の気持ちを想像し、自分事として考えることができる児童の育成



研究主題に「人の気持ちを想像できる子」「自分事として考えることができる子」という目指す児童像を掲げ、道徳科の授業ではその2点を中心に据えて工夫する。また、道徳科の授業のみならず、全教育活動を通して「人の気持ちを想像し、自分事として考えることができる児童」を育てる方法を探していく。

5 研究の進め方

【昨年度から引き続き取り組む内容】

- ・ 道徳の授業の流れを共通理解し、「きづき」の教材を用いて展開し、「まなび」に記入させる。
※「授業の進め方」を各学級に配付する。
- ・ 作業日を設定し、場面絵やワークシート等を整備したり、別葉を完成させたりする。
- ・ 研究授業は6回[各学年1回ずつ]…当日までに全学級が同じ内容項目で授業を実施、交流する。
- ・ 「金曾木メソッド」を手だてとして、各研究授業に取り入れていく。5つの柱の手だての内容が増えていけるようにする。(研究紀要 終—4、5参照)

【今年度新たにに取り組む内容】(年度末の反省をもとに)

【研究の内容について】…他教科や特別活動(周年行事など)との関連、表現方法の幅を広げる

他教科や特別活動(周年行事など)との関連

- ・ 他教科や特別活動等との関連を考えて、別葉の見直しを定期的に行ったり、指導案に他教科や特別活動等との関連を記入したりする。(別葉を参考)
- ・ 周年が行われることを踏まえて、「Cよりよい学校生活、集団生活の充実」「C伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の内容項目を取り入れる。

表現方法の幅を広げる

- ・ 書くことや話すことに課題がある児童も自分の考えを表現することができるよう、様々な表現方法を学ぶ。
- ・ アンケートの結果や教材の提示に加えて、児童の考えを表現するツールとしてもICT機器を積極的に活用し、金曾木メソッドの5つの柱の手だてとして位置付けていく。

《研究授業日と講師》

①5月31日(水)、③7月12日(水)、④10月25日(水)

→講師：白百合女子大学人間総合学部初等教育学科教授 針谷玲子先生

②6月28日(水)、⑤12月13日(水)、⑥1月31日(水)→講師：根岸小 小西祐一校長先生

【研究の取り組み方について】

組織

- ・ 低(1・2年)・中(3・4年)・高学年(5・6年)分科会とし、指導案検討、授業提案を行う。
- ・ 専科部会は作らず、専科の先生方はいずれかの分科会に所属する。(専科で相談)

協議会

- ※協議会の役割は、昨年度同様学年ごととする。
- ・ 略案での報告は負担が大きいため、同じ内容項目で授業を行うのみとする。
→研究授業後の保護者向け「道徳だより」に授業について報告する。
- ・ 授業記録の撮影はなくし、PCによる記録のみとする。

その他

- ・ 年2回のアンケートについては、1年間の研究の成果と課題を考察する上では必要なツールであると感じる。効果的なアンケートになるために、文言の見直しや入力負担軽減が必要である。
- ・ 家庭との連携を図るために、研究授業後に「道徳だより」を発行し、授業の内容を掲載する。
- ・ 2月14日(水)に研究全体会を設定し、紀要作成前に成果と課題を話し合う時間を確保する。

6 研究のまとめ方

- ・ 指導案を、学年ごともしくは内容項目ごとに研究紀要にまとめる。
※年度の初めに、字体やポイント数、用紙の余白等を決めておく。

研究経過

月 日		内容
4月 6日	全体会	・研究組織の確認 ・研究主題の提案 ・研究授業の進め方の提案 ・年間計画の確認 ・研究のまとめ方の確認
5月31日	全体会	・5学年研究授業 ・研究協議会 主題名 自由の意味[A 善悪の判断、自律・自由と責任] 教材名 「うばわれた自由」 授業者 5年3組 石田 みゆき 主任教諭 講師 白百合女子大学人間総合学部初等教育学科教授 針谷玲子先生
6月28日	全体会	・2学年研究授業 ・研究協議会 主題名 ちがいはあっても[C 公正、公平、社会正義] 教材名 「およげないりすさん」 授業者 2年2組 遠藤 有紗 主任教諭 講師 台東区立根岸小学校長 小西 祐一先生
7月12日	全体会	・4学年研究授業 ・研究協議会 主題名 だれにたいしても[B 親切、思いやり] 教材名 「ええことするのは ええもんや!」 授業者 4年1組 石川 恒子 主幹教諭 講師 白百合女子大学人間総合学部初等教育学科教授 針谷玲子先生
10月25日	全体会	・3学年研究授業 ・研究協議会 主題名 学校大すき[C よりよい学校生活、集団生活の充実] 教材名 「お父さんとぼくの学校」 授業者 3年1組 澤田 梨央 主任教諭 講師 白百合女子大学人間総合学部初等教育学科教授 針谷玲子先生
12月13日	全体会	・6学年研究授業 ・研究協議会 主題名 相手を許す心[B 相互理解、寛容] 教材名 「銀のしょく台」 授業者 6年2組 上津曲 真矢 教諭 講師 台東区立根岸小学校長 小西 祐一先生
1月31日	全体会	・1学年研究授業 ・研究協議会 主題名 きまりをまもる 大せつさ[C 規則の尊重] 教材名 「たのしいドッジボール」 授業者 1年2組 鎌田 睦実 教諭 講師 元帝京大学教育学部教授 元全国小学校道德教育研究会会長 飯島 英世先生
2月14日	全体会	・研究のまとめ 成果と課題 ・来年度の研究について提案

道徳だより NO.6

台東区立金曾木小学校
校長 細田 儀広
令和 6 年 2 月 8 日

本校では、令和 3 年度より「特別の教科 道徳」の指導について研究を行い、3 年目となります。今年度も児童の道徳心を養うため、充実した道徳科の授業を目指しています。今年度より、研究授業の内容や併せて行った各学年の授業の概要について「道徳だより」を発行します。ご家庭でも、子供たちとの話題の一つにしていだきたいと思います。

【内容】 C 規則の尊重

生活する上で必要な約束や法、きまりの意義を理解し、それらを守るとともに、自他の権利を大切にし、義務を果たすことに関する内容です。

2 年

主題名 みんなのものを気もちよく

教材名 黄色いベンチ

土足でベンチの上に上がり紙飛行機を飛ばしたたかしとてつお。そのベンチに座ってしまった女の子。おばあさんが女の子のスカートの泥を落としている姿を見た時の主人公たちの気持ちを考えました。「みんなで使うもの」を気持ちよく使うためには、どのようにするとよいかについて考えてクラスで話し合いました。

3 年

主題名 気持ちよくすごそう

教材名 あめ玉

電車の中で妹が落としたあめを、素早く拾って駅のごみ箱に捨てる姉の姿を見た主人公の心情の変化を通して、公共の物や社会のきまりを大切にする事のよさについて考えました。「公共の物が汚れていたら、自分でなくてもきれいにするとみんなが気持ちよく過ごすことができる」「自分で使ったものは後片付けをきちんとしてすることが大切」など、自分の生活をあらためて振り返り、考えを発表することができました。みんなが気持ちよく過ごすために自分たちができることを考え、実践につなげていきます。

4 年

主題名 みんなが気持ちよく

教材名 雨のバスていりゅう所で

バス停留所での主人公の行動に対して、いつもとは違う対応をするお母さんを見て、自分のしたことを振り返る主人公の心情の変化を通して、約束やきまりを守る事の大切さについて考えました。「周りの人のことを考えて行動することが大切」「みんなが気持ちよく過ごすために約束を守りたい」と考えをもちました。みんなが気持ちよく生活するために大切なことを改めて考える機会になりました。

5 年

主題名 きまりの意味

教材名 夕焼けチャイム

夕焼けチャイムの約束を守らなかった主人公の気持ちを考えることを通して、きまりは何のためにあり、なぜ守らなければならないのか考えました。きまりを守るとは、自分のためだけではないことに気付き、きまりを守ること、安全で安心な生活につながるという考えをもちました。この学習を通して自分の生活を振り返り、自分の都合だけでなく、周りのことも考え、高学年としてしっかりときまりを守る態度を育てます。

6 年

主題名 きまりの意味

教材名 放置自転車

決められた場所ではないところに自転車を止めようとした主人公が、後日、放置自転車で困っている視覚障害をもつ方に出会います。急いでいた人と、困っている人と、なくなる放置自転車を整理する人と……。様々な立場にある人の気持ちを考えました。授業後半には、きまりには込められた願いがあるということについても触れて、考えを深めました。

< 1 月 3 1 日に行われた研究授業 > 1 年

主題名 きまりをまもる 大せつさ

教材名 たのしい ドッジボール？

ドッジボールをする際に、ルールを守らない友達とけんかになり、ドッジボールが楽しくなくなってしまった主人公や周りの人の気持ちを考えることを通して、なぜきまりを守ることが大切なのか話し合いました。役割演技や話し合いを通して、友達と遊ぶ際には、全員がルールを守ること、嫌な思いや悲しい思いをする人が出ないことや、みんなが気持ちよく、楽しく遊べることに気付きました。ルールを守らない登場人物に対して、どのように伝えるとよいか話し合う際には、「ルールを守らないと、けんかになって、楽しい時間が減ってしまうよ。」「みんなが楽しくなくなっちゃうよ。守ったほうが、みんなが気持ちよくやれるよ。」「自分だけ特別というのはだめ。みんなが困るから守ってね。」などと伝えるとよいと発表する児童が多く、実際の生活にも生かしていこうとする姿が見受けられました。

学校や社会には、遊びのルールの他にもきまりがたくさんあることに気付き、きまりは、「自分や他の人の命や安全を守るため」「他の人に迷惑をかけないため」「みんなが気持ちよく過ごすため」に守ることが大切だと考えを深めました。



台東区立金曾木小学校

あなたは、自分のことが好きですか。(どれか1つ)

2. 自分の「良いところ」は、どのようなところですか。(いくつでも)

- カ 友達を大切にする キ 家族を大切にする ク 分からない ケ その他

- ア 優しい イ 明るい ウ 面白い エ 責任感がある オ 一生懸命に取り組む

4. 道徳の授業は好きですか。(どれか1つ)

- その理由は何ですか。

5. 道徳の授業で、よく考えているのは、どのような時ですか。(いくつでも)

- ウ 友達の考えを聞いている時 エ 普段の生活と比べて考えている時

- 才 教科書（お話）以外での、先生の話をしている時 カ その他

- ア 同じような経験がある時 イ 登場人物の気持ちが分かった時

- ウ 友達の考えを聞いて、自分の考えと同じだったり、違ったりした時

- エ これまでの自分や、これからの自分について考えている時 才先生の話や経験を聞いた後

- 力 その他

- ア みんなと考え合えた時 イ 自分とは、違う考えを知った時

- ウ 自分の考えを伝えることができた時 エ 教科書の良いお話に出合った時

- オ 自分のことを、振り返ることができた時 カ 新しい目標ができた時

- キ よりよい自分になりたいと思えた時 ク その他

8. 日常生活で、道徳の授業で学んだことを思い出すことがありますか。(どれか1つ)

- ア 思い出すことがある。

- イ 人に言われて思い出すことがある。

- ウ 思い出すことはない。

道徳アンケートの考察

◇各学年の特徴

1年…自分のことが「好き」「まあまあ好き」と回答している児童は8割を超えている。自分のよいところは、「家族を大切にすること」「友達を大切にすること」と回答している児童が7割以上、「優しいところ」と回答している児童が6割以上いる。「よいところが分からない」という児童は1割程度にとどまっている。以上のことから、自己肯定感が高い児童が多いことが分かる。道徳の授業でよく考えている場面については、「登場人物の気持ちを考えている時」と回答した割合が7割と高い一方で、「普段の生活と比べて考えている時」は5割と低い。「自分事」として考えられるよう、普段の生活を振り返り、これまでやこれからの自分について考える発問を多く取り入れ、自分のことを振り返る時間を十分に設定する必要がある。

2年…自分のよいところを複数答えている児童が多い。中でも「家族を大切にすること」「友達を大切にすること」を挙げている児童が多く、人との関わりを意識して生活していることが伺える。道徳の学習をしてよかったと思う時では、「自分の考えを伝えられた時」を挙げている児童が多かった。普段の生活の中でも道徳の授業で学んだことを「思い出すことがある」「人に言われて思い出すことがある」と答えた児童が9割以上であり、道徳の授業で学んだことを意識して生活している児童が増えてきていると思われる。

3年…自分のことが「好き」と回答している児童は7割にとどまり、自分のよいところが分からないと回答した児童も約1割見られた。自分のよさに気付けなかったり、自信がもてなかったりしていると考えられる。道徳の授業については、「お話を読んでいる時」や「登場人物の気持ちを考えている時」によく考え、自分の考えを伝えたいと考えている児童の割合が高い。今年度は自分について振り返る時間の確保や、発問の工夫をして指導を重ねた。また、他教科との関連を意識して指導したことで、普段の生活の中でも道徳の授業で学んだことを「思い出すことがある」と答えた児童の割合が増えたことが成果である。

4年…自分のことが「好き」「まあまあ好き」と回答している児童は合わせて7割である。一方で、自分の良いところよりも、仲のよい友達の良いところで複数回答が見られた。道徳の授業でよく考えている場面では、「教科書を読んでいる時」「登場人物の気持ちを考えている時」の割合が高く、「普段の生活と比べて考えているとき」が低い。「道徳の授業で学んだことを人に言われて思い出すことがある」「思い出すことはない」と回答している児童は4割おり、道徳の学習と普段の生活が結びついていないことが分かった。

5年…自分のことが「好き」「まあまあ好き」と回答している児童が7割ほどいるが、自分のよいところよりも、友達の「いいな」と思うところの方が多く答えている。あまり自分のよさに気付くことができていないと考えられる。道徳の授業でよく考えている時や考えを伝えようと思う時が、教科書の内容や登場人物の気持ちの読み取りに関してが多い。自分のことを振り返ったり、これからの自分について考えたりする時間を増やしていけるような発問などの工夫が必要だと考えられる。

6年…6年生の発達段階を考えると、自分のことについて好きと回答する児童や、自分の良いところを回答することに抵抗のある児童が増え傾向があるが、比較的今年度の6年生は自己肯定感が高く、8割程度の児童が自分のことを好きと回答している。道徳の授業が好きな児童は、年度始めは7割～8割だったが、年度終わりには8割以上の児童が好きと回答している。好きではない児童も、9人いるため、丁寧な見取りと分析が必要だと感じる。質問6から、展開後段で考えを深めることが年度始めと変わらない課題ではあるが、質問9の「道徳の授業で学んだことを日常生活で思い出すことがある」と回答した児童は9割に増加していた。道徳の授業で学んだことを、日々の教育活動に生かすことができていたことが成果である。

◇5月と1月の結果を比較して

- ・年間を通して、自己肯定感を7割から8割に保ちながら1年間の授業を行うことができていたことがわかる。一方で、「自分のことが好き」と回答する児童の理由については、自分自身の良さを素直に認められるということよりも、自分以外の存在に優しくできるという回答が多かった。それは、自分と他人との関わりの中での自分を見つめる力が高まっているということではないだろうか。また、「そういう自分でありたい」という願望も込められていることも考えられる。高学年になると、その発達特性から自分自身の「やさしい」「素直」等という項目を認められなくなってくることもあり、年間を通した教員の子どもたちへの関わり方として、さらにその子自身の良さについて言葉にしたり、学級や学年で取り上げて価値付けたりすることを重ねていくと、全教育課程を通して行う道徳教育の成果にもつながっていくと考えられる。
- ・道徳の研究を3年間行ってきたこともあり、道徳の授業前段については、児童が意欲的に教材と向き合っ
て考えたり発言したりしていることが全学年のアンケートから分析できる。一方で、授業以外の時間に道徳で学んだことが生かされているかという項目については、不十分であるところもある。しかし、3年生や6年生に見られるように、今年度の研究の手だてとして加えた「他教科との関連」を意識して実践することは、児童の意識を変えていける手だてになっていたことがわかったことは成果の一つだと言える。本校の研究テーマでもある「自分事にして考える児童の育成」については、年度始めと年度末に行った児童のアンケートの結果を考察すると、道徳の授業の後段の工夫と道徳教育が大きく関係していることに確信がもてたことも大きな成果の一つとして挙げられるだろう。

金曾木メソッド（★マークは今年度、☆マークは令和4年度に取り入れた手立ての内容）

1 導入の工夫

事前アンケートの活用	実態を知らせる・日常の行動に気付かせる
関係する「実物」を提示	興味をもたせるとともに、本時の内容を理解させる
実体験「あいさつ当番」の想起	後段で比較させたい「あいさつ名人メーター」を記入させる 全員で取り組んだ体験により、思考のスタートラインがそろう
☆パペットの活用	ねらいに即した劇を見せる
＊導入は、短時間で印象付けるよう工夫する	

2 教材との出会い

★授業時間外の事前提示	考える時間を確保するために、朝読書の時間を活用する
場面理解のための動作化	出来事や行動を理解させることで気持ちを捉えやすくさせる
★場面絵を使った紙芝居	低学年では、文章を読むより内容に没頭できる
効果音や BGM の活用	夏の暑さや冬の寒さなどイメージを捉えやすくする
＊音楽でイメージを固定させないよう注意が必要	
サスペンス読み	途中で話を切って、先の展開を知らせずに問いかける
教材を読み終えた後の余韻	しばらく沈黙することで、児童が感じる時間を確保する
☆ペープサートの活用	登場人物を動かしながら、教材提示を行う
☆スライドショーの活用	場面絵と登場人物の行動や台詞の文を電子黒板に映す
★デジタル教科書の活用	教材の世界により浸れるようにする

3 葛藤場面の工夫

★役割演技 ☆補助自我技法	登場人物になりきることで、気持ちを語りやすくさせる ＊人選が鍵となる ＊見ている児童にも問いかける
「ポジショニング」の活用	考えの変化の跡を見る
	コメントを記入させるとお互い見合うこともできる
ハートメーターの活用	左右に反する気持ちを設定し、位置を考えさせる
＊登場人物の気持ちなのか、自分の気持ちなのかをはっきりさせる必要がある	
「ミッションカード」による 動作化	普段の自分とは違う行動をする可能性もあり、ワクワクしながら 様々な立場について体験させることができる
☆対比した板書	迷っている時の気持ちを、上下、左右等に分けて書く

4 道徳的価値に気付かせる

★児童同士の話し合い	話し合った内容をミニホワイトボードに記入させ、黒板に貼って共有する
児童が主体的に考えられるような発問	「どうしたらよかったんだろうね」 「どう思った？」のような投げかけ
役割演技	見ている児童へインタビューすることで、「葛藤場面」から「価値への気付き」に進める
ハンドサインの活用	発言できない児童の意思表示として活用する
「あいさつ名人メーター」の活用	導入時に記入したメーターと、活動後に記入したメーターとの変化をみる
☆構造的な板書	価値の高まりに合わせて、左上がりを書く
★登場人物の気付きを問う発問	「何が大切?」「〇〇が気付いたこととは?」等 価値理解につながるような問いかけ

5 振り返り

ワークシートの工夫	発達段階に応じて、色を塗る・自由に記述させるなど
★事前アンケートの活用	導入とは異なり、授業後の意識が変化したかを考えさせる
★ゲストティーチャーの活用	あいさつをする相手に実際にあいさつして実践に繋げる
★日常生活への橋渡し	「金曾木スタンダード 5つの ㊸」と関連付け、行動に繋げる
説話	「規則の尊重」では、他国の法律を紹介する など
最後の問いかけ	「今日の授業をやってみて、どうだった?」のような投げかけ
☆他教科との関連	他教科で使ったワークシートを活用する
☆児童の考えの視覚化	「しんせつの木」を作る

成果と課題

(1) 成果

- ・今年度は、本校の道徳の研究も3年目になり、教師一人一人の授業力が次第に高まってきていると感じた。具体的には、教材の提示の仕方の工夫（電子黒板の活用、紙芝居形式、ペープサート形式等）、思考ツールの活用、話し合いの仕方の工夫（3人組、コの字型などの隊形の使い分け）、適切な補助発問など、どの学年も授業のスキルがアップしているように思われる。
- ・授業の中で、前段と後段のつながりを意識して指導したため、後段での深まりが増した授業が増えてきているように思われる。
- ・道徳の授業が好きな児童や道徳の時間を楽しみにしている児童が増えた。コロナ禍が明けて児童間での交流が活発になったことで、友達の意見を聞くことが好きな児童も増えてきている。自己の振り返りもできるようになってきている。
- ・前段で教材の内容について話し合う、後段で自分自身のことについて考えるという授業の流れがパターン化しているので、自分の考えを書くことに慣れてきた児童や、教材文のお話から離れて自分の生活の中で自分事として考えることのできる児童が増えてきた。
- ・道徳の授業後や生活の中で、道徳の学習で学んだことを思い出す児童が増えてきた。
- ・道徳の授業をする順番を入れ替えて、今児童たちに考えさせたいことを優先したこともあった。そうすることで、道徳の授業を生活指導にも生かすことができた。

(2) 課題

- ・教材文によっては、価値項目の深まりに差があるので、授業をより深めるために、今後も指導法を工夫していく必要がある。
- ・道徳の授業に限ったことではないが、授業中に進んで発言する児童が決まっている。より多くの児童の考えを出させるための手だてをさらに探っていく必要がある。
- ・低学年では、アンケート結果だけではうまく読み取れないこともあり、道徳の授業で学んだことがどの程度実際の生活に結びついているか検証する手だてを考える必要がある。
- ・道徳授業での意識調査の内容が研究とつながっていない点もあるので、研究に生かしていくために今後も工夫が必要である。

〔研究に携わった教職員〕

校長	細田 儀広	3-1	○ 澤田 梨央	5-1	内村 樹理
副校長	前田 剛一	3-2	合間 悠美	5-2	吉田 恵吾
1-1	山下 療子	3-3	齊藤 直道	5-3	○ 石田 みゆき
1-2	○ 鎌田 睦実	4-1	石川 恒子	6-1	○ 坂上 文彦
2-1	須田 文乃	4-2	児島 雄太	6-2	上津曲 真矢
2-2	☆ 遠藤 有紗(～9月)	4-3	○ 土橋 友里	音楽	田中 裕子
	☆ 豊田 敏(9月～)			図工	大野 秀幸
				算数少人数	○ 豊田 敏(～9月)
	☆ 研究推進委員長			養護	川村 しのぶ
	○ 研究推進委員			事務	佐藤 広志